

ふたば 添田町

まちと人がつながり 力強く未来へ

豊かな自然と

歴史のこころがつくる

活力のあるまち



S O E D A T O W N

発刊にあたって

添田町は明治44(1911)年4月1日に町制を施行し、平成23(2011)年で100年を迎えました。

戦後の厳しい時代を経て高度成長時代、そしてバブル経済の破綻と激動の時代を歩んできました。また添田町におきましても、まちの基幹産業であった石炭鉱業の撤退をはじめ、幾多の苦難が町行政に打撃を与え、町勢は疲弊してきました。

しかしながら、先人たちが残してくれたふるさと添田は、自然環境に恵まれ、古代から人々が定住し農耕にたず



さわり、英彦山を中心に町内に数多く

残る文化や歴史があります。第5次

総合計画において、「豊かな自然と歴

史のところがつくる活力のあるまち

まちはひとひとはまち 連携と協働で

つくる自立のまち」を将来像・基本

理念に掲げ、その目標の実現に向けて

議会をはじめ町民の皆さんとともに手

をたずさえ協力し、すべての町民が安

心して暮らせるまちづくりを進めてい

るところです。

新たな二歩を踏み出し、さらなる躍

進を図るため、ここに町勢要覧を作成

いたしました。どうぞご高覧賜ります

とともに、今後ともご指導とご協力を

お願い申し上げます。

添田町長

寺西 明男

町民憲章

一、みんなが健康で明るく

あたたかい家庭と、うるおいの

あるまちをつくりまします。

一、教育とスポーツの振興につとめ、

青少年が健全に成長する

まちをつくりまします。

一、恵まれた美しい環境と

先輩の業績に感謝し、

福祉豊かな活力あるまちを

つくりまします。

一、創意と工夫により、

生産を高め、産業と文化の

いきづくまちをつくりまします。

一、恵まれた文化財や

美しい自然を大切にし、

訪れる人々をあたたかく

迎える魅力ある観光のまちを

つくりまします。



町の木・榎(かし)

ブナ科ナラ属の常緑高木。本州の宮城県以南の山地に自生し、光沢のあるかたい葉をもち、どんぐりがなる。



町の花・石楠花(しゃくなげ)

ツツジ属シャクナゲ亜属の常緑で日本産のものはいずれも低木。初夏、つツじに似た、紅紫色の花をたくさんつける。



添田町 マスコットキャラクター

「ひこちゃん」「ゆずちゃん」

町制施行100周年を記念して誕生。英彦山がらがらと山伏をモチーフに、英彦山と柚子ごしょうより命名。



町章

町章は「ソエ田」を図案化したもので、下部はカシの葉である。

まちと人がつながり
力強く未来へ



豊かな自然と

歴史のこころがつくる

活力のあるまち

ゆい
「結」とは…

小さな集落や自治単位における共同作業の制度で、集落の住民みんなで助け合い、協力し合う相互扶助の精神で成り立っている物事を表します。



豊かな自然と歴史のこころがつくる活力のあるまち

添田町

結

結×自然 01

添田の神秘。……06

● 添田が誇る日本三大修験道霊山

結×自然 02

四季×添田……08

● 添田の美しい自然

結×自然 03

パワースポット

巡りの旅inそえだ……10

● 「結」のパワーを生む

結×歴史 01

添田の昔話……12

● 語り継がれる添田の歴史

結×歴史 02

豊前添田説……14

● 今、添田と佐々木小次郎のつながりをひも解く。

まちと人が

つながり

力強く未来へ

結×歴史 03

文化財を

活かした

まちづくり……15

● 英彦山門前地域の再生

旧小倉街道町屋の保全・活用

結×歴史 04

歴史を食す。……16

● 修業に励む山伏たちが食した弁当

結×歴史 05

歴史探訪……18

● 先人の思いを紡ぐ添田町の誇る文化財

結×歴史 06

伝統芸能三題……20

● 津野神楽・野田獅子楽・彦山踊り





結×未来 01

道の駅 歓遊舎ひこさん……………22

●まちの自慢が勢揃い

結×未来 02

添田×技人……………23

●まちで活躍する職人たち

結×未来 03

逸品白慢……………24

●添田の特産

結×未来 04

安心・快適な

暮らしづくり……………26

●豊かな心が紡ぐまち

結×未来 05

添田のまちづくり……………28

●第5次総合計画

●豊かな自然と歴史のこころがつくる

●活力のあるまち

【施策1】地域の特性・資源を活かした活気のあるまちづくり

【施策2】美しい自然環境を守り育て、快適な暮らしのあるまちづくり

【施策3】健やかでいきいきとした安心のまちづくり

【施策4】住みよさが感じられる生活基盤が整備されたまちづくり

【施策5】豊かな心と生きる力が育まれ、文化が躍動するまちづくり

【施策6】連携と協働による自立のまちづくり



結×未来 06

協働のまち……………32

●人々の深い絆と豊かな心がつなぐまち、添田

結×未来 07

交流・教育の輪……………34

●添田町が結びつなぐ人々の輪

結×未来 08

百年の歴史……………36

●添田をひも解く

結×未来 09

議会・行政……………40

●よりよいまちづくりへ

統計資料編……………42

【資料1】地勢 【資料2】人口 【資料3】財政

【資料4】産業 【資料5】農業 【資料6】教育安全

【資料7】保健福祉 【資料8】環境 【資料9】その他

イラストマップ……………51

●見どころ満載





添田が誇る日本三大修験道霊山

添田の神秘。

長いときを経てなお添田にあり続ける神秘の山、英彦山。日本三大修験道霊山のひとつとして、古くから多くの人々にあがめられてきました。聖なる山を守り続けてきた豊かな自然は、まちの発展を支えるかけがえのない恵みとして人々とともに今も共存しています。



添田の過去・現在・ 未来をつなぐ

日子の山

福岡県と大分県の県境にある霊峰、英彦山。日本三大修験道霊山のひとつとして、多くの信仰を集めてきました。その昔、英彦山へ降臨し、山の神とあがめられた日胤尊ひこのみことの名にちなんで、日子の山「日子山」と名付けられたとされています。それが変化して、英彦山と呼ばれるようになりました。

英彦山のふもとで大自然の恵みを受けながら発展を遂げてきた添田町では、助け合い、協力し合う相互扶助の精神「結」の心が根付いています。「結」の精神は、まさに明るくたくましい添田の人々のルーツといえます。



添田の美しい自然

自然

季田

【添田の春】

あたたかな日差しの下、小鳥のさえずりが聞こえてくる季節。公園の周りを彩る桜の木々が、辺りを春色に染め上げます。

【添田の夏】

辺りの緑が一層輝きを増す新緑の季節。山の中を流れる清らかな流水のせせらぎが、人々を涼やかな気持ちにしてくれます。





秋

【添田の秋】

木々の葉が緑から赤や黄色へと衣替えを始める季節。人々の目を楽しませてくれる深倉峡の紅葉は、添田町の秋の風物詩となっています。



【添田の冬】

銀世界が広がる季節。四王寺滝は、自然が造り出す幻想的な氷柱におおわれ、多くの登山者たちを魅了します。

結×

四添

冬



添田のパワースポットを巡って
「結」のパワーを
再発見。

「結」の
パワーを生む

巡りの旅 in そえだ

パワースポット

2 修験道時代の霊仙寺大講堂で、天平12(740)年の建立といわれています。現在のものは江戸時代初期に当時の小倉の藩主、細川忠興公の寄進によって再建されたものです。和様建築ですが、一部に唐模様手法も取り入れられ、大きい木割りと規模の広壮さ、華やかすぎない装飾の姿に豪壮さを感じます。

古 来より神体山として信仰されていた英彦山は、天照大神の子、天忍穂耳尊を祀り、日の御子を祀るところから「日子山」と呼ばれ、これが「彦山」となり、後年「英」の字が院宣によって付けられました。また、その昔、北魏の僧・善正が修行中、獵師の藤原恒雄に会

神秘の力が
みなぎるスポット

1 銅鳥居は、高さ約7mの青銅製の大鳥居で、寛永14(1637)年佐賀藩主鍋島勝茂公より寄進されました。「英彦山」の勅額は、豊元法皇より下賜されました。





英彦山神宮奉幣殿
(国指定重要文化財)



い、殺生の罪を説きましたが、それでも恒雄は狐を続け、1頭の白鹿を射ました。そのとき、3羽の鷹が現れ、白鹿に檜の葉に浸した水を与えると、白鹿は生き返りました。恒雄は、この白鹿は神の化身なのだと悟り、善正の弟子となつて当社を建立したといわれています。

珍しい銅製の鳥居をくぐり、光に反射する幻想的な石段を登ると、そこに広がるのは英彦山神宮奉幣殿。山の緑に朱塗りの柱が美しく光ります。境内の空気は澄んでおり、心地よい空間が人々を迎えてくれます。

英彦山の西南、障子ヶ岳のふもとにある深倉峡は、深山特有の静けさに包まれています。深倉園地は秋の紅葉のほか、さまざまな奇岩を見ることもでき、パワースポットして近年注目を浴びています。

3 高さ38m、樹齢約1,200年の鬼杉は、その名の通り、まちに伝わる鬼の昔話が由来となっています。「日本の森の巨人たち100選」にも選定されたその圧倒的な存在感と迫力は、まるで鬼の魂が宿っているかのようです。



4 豊前坊にある高住神社は天狗伝説の地として知られています。境内には、農耕と牛馬の安全の守護神である「神牛」が祀られています。

5 慈母の滝は深倉園地の駐車場のすぐ下にある滝で、道路から見下ろすことができます。滝に掛かる紅葉のいろとりが人々に秋の訪れを感じさせられます。

6 大注連縄は、峡谷を挟んで立つ2つの奇岩「男魂岩」と「女岩」の間に掛かる大きなしめ縄で、深倉峡の見どころとなっています。





添田の歴史物語

01 地名伝説

物語

添 田とは、昔、新羅国から岩石山に移り住んできた曾裏里神の名が変化したものだといわれています。かつて、赤村と津野二帯は吾勝野と呼ばれていました。ところが、景行天皇が熊襲を討つとき岩石山山頂に登り、

神々を祀って東側を見下ろし、「二つの村にしたがよい」と言われ、アカツノ村になったとされています。



▲岩石山山頂城跡

語り継がれる添田の歴史

くそえだのむかしばなし

添田の昔話

太古の昔からそびえ立ち、

まちを見守ってきた

英彦山には、数多くの

物語が残っています。

添田が語る歴史を、

ひも解いてみましょう。

彦山開山伝説

『彦山縁起より』

彦 山の開祖、善正法師は彦山の石窟で修行中、狐師の藤原恒雄に出会い殺生の罪について説き続けまし

た。ある日瑞獣の白鹿を射

てしまったことを深く反省

した恒雄は、祠を建てて善

正の仏様を祀り霊山と名付

けました。そして、善正の弟



▲善正上人と藤原恒雄画像

子となり修行に励み草庵と結びました。これが彦山のはじまりです。

02 物語

彦山霊験ばなし

肥 前国鍋島村の平右衛門(平太郎)が、彦山権現参拝の帰り、

雪に足をとられて谷間に落ちてしまいました。気が付いたときには、体は無傷で手に金の仏像を持っていました。彦山権現の御加護に感涙した平右衛門は彦山権現社を建て、子孫も繁栄したそうです。

03 物語



▲彦山三所権現像

田話
添民

花月

くかげつ

昔

彦山のふもとに佐藤源左衛門家継という地頭が住んでいました。源左衛門のひとり息子、花月は四王寺で学問を学ぶ、評判の秀才でした。ある日、花月は四王寺からの帰り道、道端の石でひと休みしていると、天狗が現れて花月をさらっていき、後に残されたの

は花月のすずり一つだけでした。

息子の帰りを待てども一向に帰ってくるようすはなく、悲しみに暮れた源左衛門は出家し、息子を探して諸国を回りました。それから幾年月が流れ、京都の清水寺を訪れた源左衛門は、青年へと成長した花月と再会し、ついに親子は対面を果たしました。その後、花月も出家をし、親子2人で仏道修行を行うために、彦山へ帰っていったそうです。



田話
添民

鬼杉

くおにすぎ

昔

鬼たちが住処を求めて彦山へやってきました。彦山の主である権現様は、鬼たちを追い払う口実に「夜が明けて二番鶏が鳴くまでに家を建てられたら彦山に住まわせてやろう。しかし、できなければ退散しろ」と命じました。怠け者の鬼たちは「晩で家を建てることできないと考えていた権現様ですが、鬼たちががんばりで家が完成して

いく様を見て、鶏の鳴き真似をして夜が明けたと勘違いさせました。そのとき鬼たちが捨て置いた材木が石になり、「材木石」と呼ばれ、鬼の首領が杖にしていた杉の小枝が地中に根付いて成長したものが「鬼杉」と呼ばれています。





豊前

添田説

ぶぜん
そえだせつ

今、添田と佐々木小次郎の
つながりをひも解く。

column
&
interview

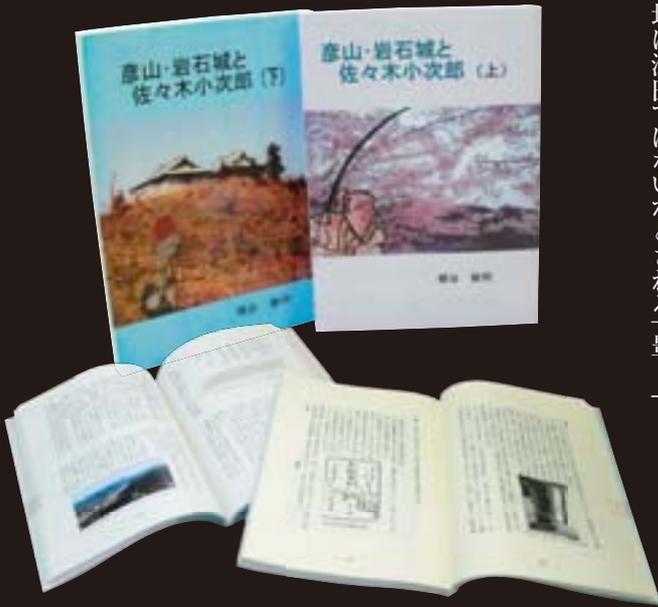
佐々木小次郎の出身地は 添田町だった

平

成15(2003)年、NHK大河
ドラマ「武蔵 MUSASHI」

が全国放送されて以降、佐々木小次郎
の出生地は添田ではないかとされる「豊

前添田説」が注目され始めました。これ
をきっかけに、豊臣秀吉の九州動座の英
彦山・岩石城を巡る戦いと武将について



▲ 添田と佐々木小次郎のつながり

佐々木小次郎は、安土桃山時代から江戸時代初期にかけて、当時西国一の
剣客として名を馳せ、「燕返し」という秘剣を編み出した人物です。小次郎は、
前髪のある特徴的な髪型に、物干し竿ほどの長さがある長剣を背負うという独特
の身なりをしていました。小次郎は、慶長17(1612)年4月13日、歴史的に
有名な巖流島の戦いにおいて、宮本武蔵との決闘に敗れ、短い生涯を閉じま
す。梶谷敏明氏の著書「彦山・岩石山と佐々木小次郎(上)(下)」には、小次
郎と添田の深いつながりが記されています。

調査が進められました。その結果、細川
藩小倉時代に、豊前豊後筑前での小
次郎の活躍がうかがえる資料が発見さ
れました。さらに、宮本武蔵に関する資
料のひとつ、「沼田家記」によると、巖流
島の決闘は、細川藩の藩政を確固たる
ものとするため、内々で仕組まれた決
闘であったと記載されており、小次郎
と武蔵の戦いには政治的な背景がうか
がえます。

また、小次郎の身なりが、山伏と似
通っていることも豊前添田説を裏付け
る証拠といえます。まず、小次郎が着て
いる衣装は山伏の鈴懸すずかけに似ており、背
中に背負う大きな刀剣も、山伏の法杖
から由来するものとされています。

Profile
添田町文化財委員長

梶谷 敏明さん

添田町郷土史会のメンバーとして、まちの歴史を研究。平成21
(2009)年、著書「彦山・
岩石城と佐々木小
次郎 下」を出版。

結び紡ぐ、 添田と小次郎の絆

豊前添田説の研究を始めたとき
からは、小次郎の出生地を探るテ
レビ取材の訪問でした。知恩寺の
系図に明記されている佐々木一族の
姓や、小次郎と山伏の服装が近い
ことから、彼の並々ならぬ体力は英
彦山での修行の成果だと考えら
れます。また、作家の笹沢左保さ
んによる宮本武蔵の研究から、小
次郎と添田の関連性が深まりま
した。NHK大河ドラマ「武蔵
MUSASHI」の放送後、豊前
添田説は全国的に広まっています。





文化財を活かした まちづくり

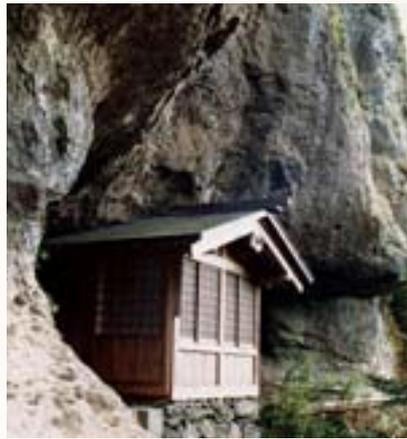
添田の地に眠る数々の歴史文化遺産を活用し、
まちの活性化へとつなげていきます。

英彦山門前地域の再生

英

彦山には、自然・歴史・文化など
数多くの資源が存在する中、

その豊富な資源の保存・活用が十分で
なかったため、霊山の信仰が薄れてい
き、衰退しつつあります。町ではこの問
題を解決するため、「歴史と文化を大
切にした豊かさの躍動する魅力あるま



ちづくり」を目標に、英彦山の再生を
図っています。かつて800坊もの宿坊
でにぎわっていた門前にも、古坊、庭園
群、石塔群など貴重な歴史を語る文化
遺産があります。これらの歴史的価値
を明らかにし、国史跡指定に認定され
るよう整備・保全をしていくことで、英
彦山門前の再生・活性化を図ります。

旧小倉街道町屋の 保全・活用

回

小倉街道は英彦山詣の街道と
して発達した道で、伝統的建造

物が立ち並び、落ち着いた雰囲気の中
屋群が広がっています。中島家住宅や
中村家住宅（あたらしや醤油）など重
要な文化財を中心に、古くから続く歴



史と文化が残る場所です。時代の変遷
とともに衰退した、商屋等の文化財を
保全・維持するため、区域を設定し、地
域活力向上と歴史文化遺産の融合を
めざしています。



修業に励む山伏たちが
食した弁当



現在では希少な
こんにやく

最近では見ることの少ないこんにやく芋を使ったこんにやくは、煮しめの具材のひとつとなっています。

食歴史を

英彦山で暮らす
山伏が生み出した
スタミナ満点の
食文化

山 伏は、山にこもって厳しい修業を
行い、山とともに生活をしてい

ました。彼らが厳しい修業に耐えるこ
とができるようにと、日々の暮らしの
中で独自の食文化が生み出されま
した。山の恵みをふんだんに取り入
れた弁当からは、当時の山伏たち
の生活がうかがえます。



地元のお米を使った
おにぎり

添田が誇る良質な水の恵みを受けて栽培されているお米から作られるおにぎりの味は絶品です。



英彦山 山伏弁当

【やまぶしべんとう】

山伏弁当は古くから伝わる食文化であり、特に盛んになり始めたのは1600年ごろからで、400年以上の歴史があります。山伏弁当の主食はスタミナ満点のおにぎりや田楽餅で、煮しめ・ゼンマイ・干シタケノコ・干シイタケ、里芋、しめ豆腐など、栄養価の高い保存食が副食の惣菜類として入っています。自然への感謝と人々へのおもてなしの心がつまっています。



に山伏の家族が山伏弁当を持たせ、参拝者の健康と不老長寿を願いました。

当 時、山伏たちはおもてなしの心を大切に、坊へ泊まった参拝者へ酒やごちそうをふるまいました。そのおもてなしの心を表しているものが山伏弁当です。参拝者が里へ下りるとき

おもてなしの
心を人々へ

丹精込めて作り上げる

しめ豆腐

できあがるまでに3日ほどかかるといわれるしめ豆腐は、水気を抜いてしっかりと煮しめるなど手間ひまかけて作られます。「野の華会」の方たちが、丹精込めて作ったしめ豆腐の味は格別です。

健康と
不老長寿を願った
添田産
古きよき味



Profile
日本山岳修験学会顧問
長野 覺さん

添田町出身。福岡県立田川中央高校教諭、駒澤大学文学部教授、同大学院人文科学研究科教授などを務めた。修験道の研究をしており、「英彦山修験道の歴史地理学的研究」（名著出版）、「修験道の歴史と現状」「神仏習合と修験」（新潮社）など著書論文多数。山伏弁当復元の考案者。

るにいたりしました。
伏の日記や資料などから当時の山伏たちが主食としていたものを調べ、半年がかりで当時の味を再現するにいたりしました。
ものが山伏弁当の復元でした。山伏の日記や資料などから当時の山伏たちが主食としていたものを調べ、半年がかりで当時の味を再現するにいたりしました。

心を結ぶ
column&interview

日本の古きよき
味を再現



先人の思いを紡ぐ

添田町の誇る文化財

先人の軌跡を辿る

時代を超えて語り継がれる
誇り高き郷土の足跡を今辿る

人 あるところに文化あり。文化あるところに歴史あり。

崇高なる霊山「英彦山」とともに数多くの歴史を刻んできた添田町。信仰の遺産を中心に、宿場町としての歴史

や文化を今なお、色濃く現代へ伝えて
くれています。

そんな先人たちが紡いできた文化や
思いは、時代を超えた今も、文化財に
よって語り継がれています。

添田町の

歴史 探訪

「れきしたんぼう」



▲仁王般若経上・下2巻 (国重文)

仁王般若経は、法華経・金光明経とともに護国三部経のひとつとして尊重されていました。平安時代の装飾経としては法華経が多く伝存する中で、仁王般若経の遺例はほかに類例がない大変貴重な遺品です。



▲木造薬師如来坐像(県指定)

ハルニレの木を材とした一本造で、面相は三日月眉がゆるく長く伸び、細目はゆるやかに流れて、円満な面貌の中にも威厳と神秘さを感じさせます。



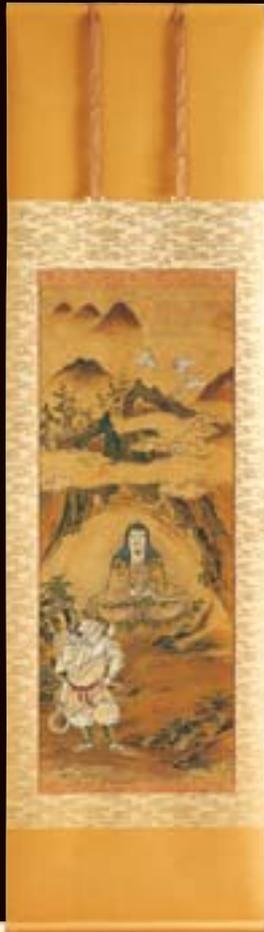
▲彦山三所権現御正体(国重文)

古くから修験道の霊場として信仰を集めてきた英彦山の三祭神を表したもので、豊かな肉取りと厳かな像の表現は、高い技術と古い様式を示しており、鎌倉時代の早い時期に制作されたと考えられています。

▶金銅製如来立像(国重文)

英彦山の山頂にある経塚から出土したもので、その様式や鑄造技術、巧みなあしらいから見て、かつて朝鮮半島から舶載された新羅仏と考えられ、国を越えたつながらりの中で伝えられてきたものです。





▲中島家住宅(国重文)

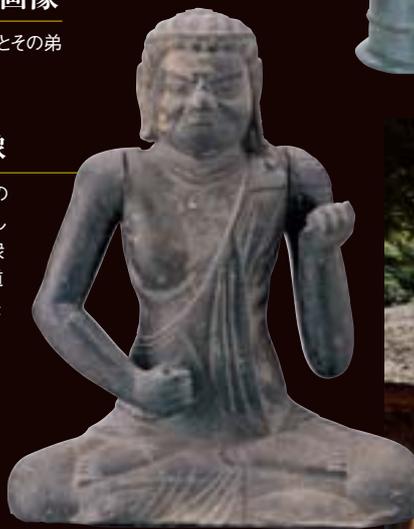
寛政2(1790)年頃から、ハセの実を原料としたろうそくの製造や、醤油の醸造業などを営んでいた商家の跡で、良好な保存状態で改変も少なく、小倉から英彦山にいたる街道「宿場町添田」の名残を現代に色濃く伝えてくれています。

◀善正上人と藤原恒雄画像

彦山の開山の祖と言われる、僧・善正とその弟子である藤原恒雄が描かれています。

▶銅像不動明王坐像

鎌倉時代に造られた密教特有の仏像で、大日如來の教令輪身として忿怒(ふんぬ)の相をもって衆生を済度する役割をもち、修験道との結び付きが強い不動明王坐像です。



▼英彦山山頂出土経筒(国重文)

英彦山経塚遺跡から出土した経筒の胴体部分には、銘文が彫られ、造営時の事情を示す貴重な歴史史料となっており、そのほか、銅如来立像なども見つかっています。



▶修験板笈(国重文)

現存するものでは日本最古という室町期の修験者が使った背負子。経文などの道具を運ぶために使った道具で、荷物をしばり、背負って使用していました。



▶旧数山家住宅(国重文)

英彦山の北麓にある、天保13(1842)年に建てられた農家建築で、原型をよく留めており、開放的な屋敷と広間が特徴です。旧津野村では最も大きな民家と考えられています。



文化財一覽

区分	指定年月日	名称
国指定	M40. 5.27	英彦山神宮奉幣殿
	S14.10.25	英彦山神宮銅鳥居
	S52. 1.28	中島家住宅
	S53. 1.21	旧数山家住宅
	S34. 6.27	修験板笈
	H 5. 6.22	彦山三所権現御正体
	S 3. 2. 7	旧亀石坊庭園
	S13.12. 9	英彦山の鬼杉
	S16. 8. 1	鷹ノ巢山
	S63. 6. 6	英彦山経塚遺跡出土品
県指定	H 2. 3.27	仁王般若経
	S41.11.15	板倉
	S41.10. 1	梵鐘
	S30. 7.21	木造薬師如来及台座
	S41.10. 1	英彦山資料(88件)

区分	指定年月日	名称	
県指定	H 3.11.15	英彦山楞嚴坊修験資料(160件)	
	S53. 3.25	英彦山修験道関係文書(399点)	
	S53. 3.25	高田家英彦山修験道関係文書(471点)	
	S39. 5. 7	英彦山トチノキ(七葉樹)	
	S39. 5. 7	英彦山の菩提樹	
	S32. 8.13	英彦山のぶっぽうそう	
	S46. 6.15	諏訪神社のイチイガシ	
	H23. 3.18	顕揚坊庭園	
	町指定	S57. 6.10	十二神将12体
		H 2. 3.31	彦山踊り
H 3. 6. 7		吉木の山桜	
H 3. 8. 7		大峰の大クヌギ	
	H10. 3.20	英彦山大河辺山伏基地	
	H23. 6.10	中村家住宅	

資料:添田町役場



添田町 伝統芸能三題

親から子へ、子から孫へ、
地域から家族へと伝えられてきた、添田の伝統芸能。
世代を超え、守り伝えられてきた、
華やかな祭りや厳肅な神事は、
これからも地域「愛」によって継承されていく。

二 津野 神楽

【つのかぐら】

情熱によって伝承される神楽

昭

和20(1945)年、地元の子ど
もたちへ伊良原神楽という神
楽が伝えられたことが起源とされ、昭
和46(1971)年に保存会を結成し、
現在も地域住民により伝承されていま
す。毎年5月のはじめ、高木神社の神幸
祭に、五穀豊穡・天下泰平を願って奉納
されます。

また、津野神楽は豊前一带に分布し
ている岩戸神楽の基本的な型を伝えて
います。





野田

獅子楽

【のだししがく】



雌雄の獅子と楽が、
笛太鼓の調べに合わせて舞う

文

化元(1804)年、日向の国から舞楽の師を招いて取得した

もので、五穀豊穡を感謝し、鎮守加茂神社の神幸祭に奉納される荒々しくも艶やかな舞です。獅子舞は5つあり、それぞれ指定場所で奉納されます。

1年間の農作業を12の廻り^{まわ}楽^{がく}と後楽^{あとがく}で表す楽は、笛や太鼓の調べに合わせて子どもたちが円を描いて舞います。

神に捧げる

気品漂う優雅な舞

彦

山踊りは南北朝時代の元弘3(1333)年、英彦山神宮の当時の座

主が京都から赴任して、踊りを村人に伝授したのが始まりとされています。

その後、伝承にも困難な時代が訪れますが、地域の自治会が中心となり保存会が結成され、現在に引き継がれています。気品漂う優雅なこの舞は、毎年英彦山の山開きなどで踊り継がれています。



三、

彦山

踊り

【ひこさんおどり】

平成11(1999)年、物産館としてオープン後、平成17(2005)年に道の駅としてスタートしました。まちでとれる野菜・果物や添田町ならではの伝統工芸品などが売られています。



道の駅

歓遊舎ひこさん

まちの自慢が勢揃い



▼地元で作る加工品の販売

特産品の乾椎茸や、農産加工連続セミナーで考案された加工品で商品化したものなどを販売しています。



▼地元でとれる野菜の販売

さまざまな農家で収穫された野菜が売り出されています。地元でとれる新鮮な野菜や、良質な花を購入できます。



▲公園も完備

道の駅のすぐそばにある「ふれあい広場 子どもワクワクパーク」では、子どもたちがのびのびと遊ぶことができます。



▲JR歓遊舎ひこさん駅

平成20(2008)年に新しく開設された駅で、道の駅歓遊舎ひこさんに隣接しています。列車に乗って、道の駅での買い物が楽しめます。

農産加工連続セミナー

1 日 密 着 レ ポ ー ト



▲みんなで座学

まずは、今日調理するものについて、みんなで先生のお話を聞きます。



▲調理風景

準備が整ったら、いよいよ調理の開始。今日は米粉を使ったワッフルに挑戦します。



▲できあがり

米粉を使った料理の完成です。モチモチとした食感がたまらない、新感覚の食べ物です。



加工セミナーから生まれた加工品の数々。

このセミナーを通じて実際に商品化されたものもあり、今後は、毎年提供できる商品づくりと販売サイクルの仕組みを作り、農産加工品をもっと広めていくことをめざします。

準備が整ったら、いよいよ調理の開始。今日は米粉を使ったワッフルに挑戦します。逆に関心を持ってくださることも多く、お互いが勉強になっています。

農産加工連続セミナーを開講しています。セミナー参加者は15名ほどで、40代から60代まで幅広い年齢の方が参加されています。セミナーの中で、自ら試作品を作り、商品化できるかどうか相談し合う参加者たちをよく目にします。

農

産加工を地域の中で広めていくため、2年前から

地域資源を活かした活動で、まちを活性化したい

講師 尾崎 正利さん

福岡県出身。食品加工室「(有)食彩工房たくみ」の代表取締役。現在、添田町で農産加工連続セミナー講師を務める。



column & interview



まちで活躍する
職人たち

添田 枝人

～わぎびと～
interview



受け継がれる
百余年の歴史

●藤川椎茸園
藤川 剛さん

藤川 椎茸



原 木を使った椎茸栽培を行って
ます。英彦山の自然と水の恵み
に育まれた、風味豊かなこだわりの乾
椎茸です。無農薬栽培で作られた安全
安心の乾椎茸は、学校や病院などの給
食にも使われています。

今では、インターネットによる販売も
増え、全国の皆さまに幅広く愛されて
います。

英彦山 がらがら



先 祖代々受け継がれてきた英彦
山がらがらを作り始めたのは
小学生のころです。見よう見まねで作
り方を覚え、今では1日600個ほど
作っています。5、6年前から始めた子
どもたちへの体験学習は、私のやりがい
です。子どもが作ったがらがらが家の
玄関に下がっているのを見かけたとき、
とくにやりがいを感じます。

まちに残る 唯一の作り手

●鈴類蒸元
篠崎 嘉丈さん



添田が誇る ブランド

●添田花卉部会
木村 良一さん

トルコ ギキョウ



元 々米とイチゴ栽培を両立してい
た私は、米と栽培時期が重なら
ない花卉栽培を始めました。英彦山の
標高500メートルの涼しい気候により、
夏でも高品質なものが栽培されるトルコ
ギキョウは、県内・全国でも高い売上を示
しています。平成22年度には販売額が1
億円を超えるなど、「てんぐの花」ブラン
ドとして全国に広まっています。



【ゆずごしょう】 柚子ごしょう

添田町で採れた新鮮な柚子で作られ、柚子の風味にピリっとした胡椒の辛みがアクセントとなり、みそ汁やうどん、焼き鳥や餃子など、いつもの料理の味を一層引き立ててくれます。



添田の特産

逸品

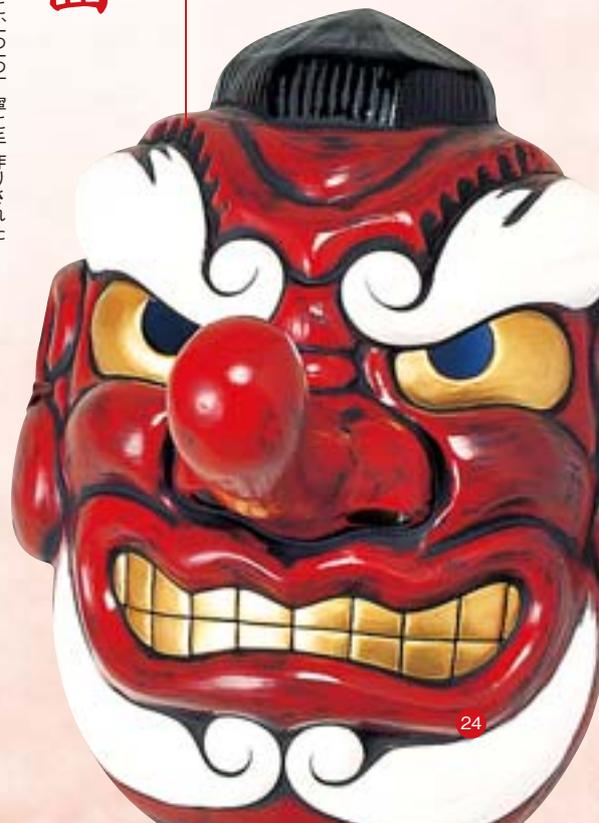
独特の甘い香りと、控えめの酸味が調和し、食味は極めて優れています。艶のある鮮紅色で、糖度が高く、酸味が少ない食べやすさが評判の一品で、添田町の代表的な果実のひとつとして幅広く知られています。

【いちご】
いちご



【とうめん】
陶面

天狗伝説をモチーフに、二つ丁寧に手作りされた陶面は、いきいきとした力強い表情の中に、どこかあたたかさを感じさせます。お土産品のほか、魔除けや新築祝いのお品として人気です。



【とるこぎきょう】 トルコギキョウ

栽培が難しいといわれるトルコギキョウを、試行錯誤を重ねて高い品質と周年出荷を実現。バリエーション豊かで優雅な花々を楽しめます。



【そえだのやさい】 添田の野菜

野菜の栽培が盛んな添田町では、肥沃な土が数々の野菜をはぐくんできます。栄養がギュッと凝縮された添田町自慢の野菜は、良質な味を誇り道の駅でも大好評です。



【ひこさんからから】 英彦山 からから

文武天皇（飛鳥時代）が英彦山に奉納した鈴が由来とされ、国内でも最古の部類といわれる約800年の歴史を持つ土鈴です。職人が一つ一つ丁寧に手作業で作るその音は、すべて違った音色を奏でてくれます。



未来へつながる

「農業青年会」の活動

農業青年会は、町内で農業を営む生産者たちによるボランティア活動団体です。子どもたちが農業についてふれ、理解を深めることができるように、野菜の植え付け・収穫体験などを毎年行っています。



低カロリーで食物繊維が豊富なこんにゃくは、日本の伝統的な健康食。昔ながらの製法で作られています。



原木を使った椎茸栽培にこだわった添田の椎茸は、良質な英彦山の水によりはぐまれ、香りまで美味しい逸品です。



山里が色付き始めるころ、甘みのギュッと詰まったたくさんの栗が道の駅に並びます。



独特の食感と強い甘みが特徴で、生果として以外でもジャムなどの加工品として広い用途が魅力の果実です。



県産の大豆と英彦山からの水で作られた豆腐で、甘みと風味が強く人気の品です。



英彦山の清流で育った清流米は、ビタミン、食物繊維が豊富な「玄米」、艶と粘りにおいしい香りと甘みの「白米」とお好みで精米できます。



昔から霊域として守られた英彦山一帯の大自然の営みをそのままパックにした、ナチュラルミネラルウォーターです。



添田町で栽培されているチューリップは県内一の生産量を誇っています。



【あいすくりーむ】 アイスクリーム

添田町の新たな魅力のひとつとして生まれたアイスクリーム。濃厚で新鮮な牛乳をベースに、添田の特産品のいちじく、ブルーベリー、トマトをふんだんに使用した、上品で滑らかな口当たりのアイスクリームです。

【あすぱらがす】 アスパラガス

太陽をいっぱい浴びて育ったグリーンアスパラガスは、ホワイトアスパラガスに比べて栄養価も高く、シャキシャキの歯応えと甘みがくせになる逸品です。





豊かな心が
紡ぐまち

子

育て中の保護者をサポートするシステムです。母子手帳を電子化し、パソコンや携帯電話で予防接種履歴や健診の結果などを確認できます。

また、保育園等からのお知らせや不審者情報をメールで受信することもでき、安心して子育てができる環境が整備されています。

最新の技術で

子育て支援

子育てねつとそえだ



子育てママの

強い味方

地域子育て支援センター 子育てサークル

母

親の中には、子育てに関する悩みを抱えている方も多いのではないのでしょうか。そんなときは、添田町の子育てサークル「めだかつこ」、「おんぶに抱っこ」をのぞいてみてください。みんなで楽しみながら子育てしましょう。



安心・快適な

みんなが

すくすく

発達障害児保育

添

田町では、平成23(2011)年4月から発達障害児を対象とした専門クラスを、町立みどり保育園に新設しました。保育事業としては県内初となります。個々の子どもに応じたプログラムを作り、育児相談による保護者の支援にも努めます。今後、町内外問わず発達障害児の受け入れをめざします。



暮らしぶり

添田町に住む人々が、安心して
快適な生活を送ることができる
まちづくりをめざします。

地域で協力 まちの安全 防災支援

東

北地方太平洋沖地震を踏まえ、添田町も防災対策プロジェクトの組織化、洪水ハザードマップの作成により、危機管理体制の強化に二層力を入れています。また地域住民と連携し、災害時における体の不自由な方への援護体制も強化します。さらに、青パトによる防犯パトロールも行っています。



地域で子育て 添田の世代間交流

そ

えだまち元気倶楽部と町内の保育園・小学校が定期的に行っている世代間交流では、高齢者と子どもたちが一緒にゲートボールや工作を楽しんでいます。交流によるふれあいが、豊かな心をはぐくみ、地域での子育てを実現します。



みんなできいきいき

そえだまち元気倶楽部

介

護保険の認定を持たない65歳以上の高齢者を対象に、楽しいひとときを過ごしていただく場です。バイタルチェックに始まり、健康体操、レクリエーション、野外活動など楽しいメニューがいろいろあります。



子育て支援 出産育児奨励金

子

どもの出産・成長を祝して出産育児奨励金を支給し、児童の健全育成と資質向上をめざす制度です。町内に生活の本拠を持ち、かつ住民基本台帳に登録された日から1年以上町内に住所を持つ方が対象です。

放課後も安心

放課後児童健全 育成事業

放

課後、保護者がいない子どものため、安心・安全な遊び場として、小学校の空き教室や公民館等を利用して学童保育所を開設しています。子どもの健全な育成を図る場として利用されています。



添田のまちづくり

古くからあり続けるまちの自然や歴史をとおしてまちと人が結び付き、
力あふれる添田のまちづくりをめざします。



「第5次総合計画」

豊かな自然と歴史のこころが
つくる
活力のあるまち



地

域の特性・資源を
活かした

活気のあるまちづくり

- 1 農業の振興
- 2 林業の振興
- 3 商工業の振興
- 4 観光の振興
- 5 雇用・労働対策の充実
- 6 特産物の開発とブランド化の推進
- 7 有害鳥獣対策の推進

まちの地域産業として農業では、生産から販売まで農業振興サイクルのシステムづくりをはじめ、新たな特産品や地域ブランドの開発、産業間連携を促進し活気あるまちを築いていきます。



美

しい自然環境を
守り育て、快適な

暮らしのあるまちづくり



快適な生活環境の整備に向けて、リサイクルをはじめ、ごみの減量に対する継続的な取り組みやごみ不法投棄の防止対策の強化を進めていきます。豊かな自然環境の維持・保全や地球環境に配慮した循環型社会、低炭素社会の形成をめざします。

- 1 自然環境の保全と地球環境の保全
- 2 ごみ・し尿処理の推進
- 3 交通安全・防犯・消費者対策の充実
- 4 防災・危機管理対策の充実
- 5 上水道・汚水処理の整備
- 6 住宅の整備

健

やかで
いきいきとした

安心のまちづくり

- 1 健康づくりの推進と地域医療の充実
- 2 高齢者福祉の充実
- 3 子育て支援・児童福祉・ひとり親福祉の充実
- 4 障がい者福祉の充実
- 5 地域福祉の充実

いきいきとした地域づくりのため、子育て支援の充実、高齢者や障がい者が参加しやすい社会づくりを推進します。また、広域的な医療体制の整備や町民の健康維持などの問題を総合的に解決するため、健康医療・福祉各分野の連携による充実を図ります。



住

みよさが感じられる生活基盤が整備されたまちづくり

整備されたまちづくり

- 1 道路の整備
- 2 公共交通の維持・充実
- 3 情報ネットワークの整備・活用
- 4 調和のとれた土地利用と良好な景観形成

地域振興への道づくりの一環として、町内または町外からの交通ネットワークの向上を図るよう道路整備を進めます。また、高速インターネット環境の整備も併せて推進します。交通と情報の高速インフラの整備を推進することで、町民の利便性向上をめざします。



豊

かな心と生きる力が育まれ、文化が躍動するまちづくり

躍動するまちづくり



地域まちづくりの基礎となる人、とくに次世代を担う子どもたちの健全育成は、今後のまちづくりにおいても不可欠となっています。行政学校家庭・地域が連携して、教育環境の整備を進めていきます。また、添田の歴史的遺産を後世に伝えていくための人材育成を図ります。

- 1 人権の尊重
- 2 学校教育の充実
- 3 社会教育・生涯学習の推進
- 4 スポーツ活動の推進
- 5 文化・芸術活動の振興
- 6 地域間交流・国際交流の推進

連

携と協働による自立のまちづくり

自立のまちづくり

- 1 町民参画による協働のまちづくり
- 2 男女共同参画社会づくりの推進
- 3 コミュニティ活動の活発化
- 4 広域行政の推進
- 5 効率的・効果的な行財政運営の推進

地方分権の進展により、地方行政が独自のまちづくりを進めて行く中で、添田町は、より一層の行政の効率化と町民への情報公開の透明性を強化し、行政改革を推進します。そして、経営資源の有効活用に取り組み、町民と行政が相互に連携する協働のまちづくりをめざします。





人々の深い絆と

豊かな心がつなぐまち、添田

協働の まち

添田で暮らす人々の「結」の心が生み出す
協働のまちづくり。

町内で積極的にグループ活動が続けて

添田の魅力をPRしている3団体にスポットをあて、
各団体の代表者に熱い思いを

語っていただきました。



子どもたちへ
木々のぬくもりを
伝えたい

林業研究クラブでは発足当時、森林の再生を目的として、国有林を活用した植林に力を入れていました。さらに、県の補助事業である「グリーンネットワーク英彦山」により、県内の家族連れを対象に、1泊2日で木工体験や森林浴体験などを行い英彦山のよさを多くの人に知ってもらえる取り組みを始めました。また、津野小学校を主体とした体験活動では、プラントーを使った苗木作りや植林体験、椎茸栽培の実習等を行い、子どもたちが林業と直接ふれあい、興味をもってもらえることができる環境づくりを行っています。

【インタビュー】

林業が生み出す 人々の交流の場

添田町林業研究クラブ
小田 宣和さん

昭和42(1967)年5月、まちの基幹産業のひとつである林業にたずさわる町内の林業労働者たち20名が集まり発足。木材輸入自由化による林業の衰退や、台風の被害などにより荒廃した森林を再生するため、植林体験を通じて子どもたちと交流を深めたり、勉強会を開催して林業における知識を学ぶことで技術向上を図るなどの取り組みを行っています。

耕作放棄地を利用して 高品質で安全な 農産物を人々へ

耕作放棄地を利用して、安全で高品質な野菜や果樹を栽培しています。私たちが生産したイチジクやアスパラガスなどは、主に道の駅「歓遊舎ひこさん」や農協の共同販売に出荷しており、これからも消費者の皆さんに喜んでいただけるように、がんばっていききたいと思います。今後は、大きな粒で渋皮がむきやすい栗「ぼろたん」やモモなどの栽培・商品化にも力を入れ、高品質で安全なものを提供していきたいと思っています。

(株)栄農社
吉尾 厚さん



【インタビュー】

まちからの出資で設立 栄農社の取り組み

栄農社は、町内の耕作放棄地対策として、平成21(2009)年7月、町の出資により株式会社として設立。野菜栽培が盛んな添田町において、新たな試みとして耕作放棄地を活用した果樹の栽培に取り組み、イチジク「とよみつひめ」やモモなどを作付けしている。



観光ガイドの 活動をとおして 添田のよさを伝えたい

私たち観光ガイドボランティアは、今年で結成14年目となります。8人の少数団体ですが、一人ひとりの添田にかけの思いは熱いものです。ガイドボランティアにとつて大切なのは、観光に来たお客さまが、『英彦山にあんなところがあつたんだ』、『季節によって風景がこんなに変わるんだ』と思ってくれたいことです。私たちの活動は、添田町を皆さまに知ってもらうためのきっかけづくりにすぎません。その活動をとおして、皆さまの心の中に添田町の魅力や、英彦山のすばらしさを感じていただければ幸いです。

【インタビュー】

添田町の魅力を伝える会 添田町のよさをPR

添田町観光ガイド
ボランティア 代表
早田 真智子さん

平成9(1997)年、添田町の魅力を多くの人々に伝えられる人材育成の場として添田町観光ガイドボランティアが設立される。結成当初から変わらずメンバー8人で活動を続け、今年で14年目を迎える。平成23(2011)年9月、主催者として添田町制施行100周年記念「ふる里再発見」英彦山・日田を語るシンポジウムを開催。





添田町が結びつなく
人々の輪

添田流

添田町の「結」の心が、まち同士の交流と
大学・ボランティア等が連携する教育の輪を広げています。



交流・教育

の輪

添田線・美幸線がつないだ
2つのまち
姉妹町
北海道美深町



美 深町は北海道の北部に位置し
ており、農林業のまちとして栄
えてきました。北海道の特産品、じゃがい
も・メロン・ラム肉などが高品質なものとし
て高い評価を受けています。昭和56

（1981）年10月、美深
町と添田町は姉妹町の盟約を結びまし
た。旧国鉄日本一の赤字線が廃止された
今も、美深町と添田町の絆は「層深まり、
親密なものとなっています。

交流



▲小学生同士の交流

みんなで旭山動物園までお出かけ。ほかの場所では
見られない、珍しい動物たちのお出迎えに、みんなわ
くわくドキドキしながら楽しい一日を過ごしました。



▲中学生同士の交流

ホームステイで韓国を訪問した中学生たちが、手を真っ赤に
しながらキムチ作りに挑戦しました。

ホームステイ交流も行われています。

が重なり、国際交流が始まりました。
友好交流協定を調印したのは、平成8
（1998）年のことです。江華郡はそ
えだ夏まつりやふる里まつりなどへ参
加するために添田町を訪れ、添田町か
らは江華コインドル祝祭などへの代表
親善訪問団として江華郡を訪れるな
ど、お互いがお互いのまちを行き来して
います。また、ほかにも中学生による

韓

国の山岳宗教と英彦山開山
伝説にあるいくつかの共通点

英彦山の神話が
縁を結んだ国際交流
友好交流都市
大韓民国江華郡

県立大学との連携による学習

英峰塾

平

成21(2009)年から「添田中学校おやし会」が主体となつて、英峰塾を開講しました。英峰塾では、中学3年生を対象に学習の基礎・基本の定着を図り、福岡県立大学と連携し学生ボランティアを講師として招き、国語

教育

数学・英語の補習学習を行っています。

開講当時から対象生徒の約半数が参加し、生徒の学力向上と高校進学への大きな一助となっています。

保護者、学生ボランティア、学校、行政の連携が教育の輪を広げています。



地場産業と

連携した学校給食

添田中学校給食

平

成23(2011)年9月より

中学校で学校給食を開始し、町内すべての小・中学校において、自校式給食を実施することになりました。添田町では、地場産業との連携により、地産地消の観点から地元で採れる食材を取り入れた、安全で安心な給食を提供しています。

読書ボランティアとの連携による読書活動

子どもの

読書活動の推進

子

どもたちの生きる力を身に付けるため、幼少期からの読書活動の推進をめざし、読書ボランティア団体「添田町虹の会」と連携して、図書館活動、学校活動やイベントを通じて読み聞かせなどの取り組みを行っています。今後も学校・家庭・地域社会が一体となった読書活動の推進を図ります。





添田をひも解く

百年の

歴史

100年の歴史から紡がれてきた
まちと人の「結」のつながりを、
過去から未来へ。

添田の歴史はここから始まった

明

治元（1868）年の明治新政府の発足により、これまでの藩政体制が一新され、地方の行政が大きく変わりました。各地で町制や町村合併が進む中、ここ田川郡地域で

も合併が繰り返され行われました。そして誕生したのが添田町です。

明治から大正にかけて、添田町は石炭産業の隆盛により、人口増加と地域振興が盛んでした。田川地方で石炭が

明治・大正

- 【明治44年】 添田町制施行。戸数2,537戸、人口1万2,441人 本町・下町方面に電灯が灯る
- 【明治45年】 野田炭鉱字沼に開坑 添田北尋常小学校開校
- 【大正2年】 新城炭坑開坑
- 【大正3年】 中元寺炭坑開坑 野田・中元寺地区に電灯が灯る
- 【大正4年】 小倉鉄道開通に伴い、上添田駅・伊原駅開設
- 【大正5年】 伊原・新城地区に電灯が灯る
- 【大正6年】 田川郡内で積雪1尺5寸、彦山で5尺余
- 【大正7年】 添田～英彦山間に乗合バスが運行
- 【大正8年】 町地区に消防組が組織結成
- 【大正9年】 添田町、町章を制定 中元寺炭坑閉坑



▲蔵内炭鉱の峰地一坑の坑口
添田町を拠点とする蔵内炭業株式会社が開発した峰地炭坑では、筑豊で一番早く蒸気機関が据え付けられ、機械化への取り組みが開始されました。

発見されたのは天正年間（1573～1592年）です。農民が燃料として使用するほか、中央政府からの資本が入ることにより産出量は大幅に拡大し、全国の総産出量のほぼ半分を占めるまでになりました。炭坑の発展は人々の生活を支えるものとなりました。石炭や物資の輸送に貢献した鉄道の施設や、まちへの電気を送電するなど、添田町発展への基盤を形成していききました。

筑豊地方の発展を支えた炭坑 添田にもその歴史あり



▲かつて炭鉱で使われていた「炭鉱札」



炭

坑の採掘は財閥系の民間企業により運営されることとなります。しかし、大正の終わりごろから日本が経済不況に陥ると、失業者の増加や銀行の破綻などを招き国民生活が苦しいものになりました。そのような中で、日本が戦争を迎えるとさらに経済は困窮していきました。添田町は空爆による被害はほとんどなかったものの、供出のための物資不足による食料難となりました。添田町の歴史の中で

大惨事となった二又トンネル爆発事故は、戦争が招いた悲劇であり、町民の記憶から消し去ることはできない事件です。昭和20(1945)11月12日、落合の二又トンネルで、アメリカ軍が大日本帝国陸軍の保管していた火薬を処理し



▲全国少年剣道大会優勝

昭和10(1935)年、全国少年剣道大会で記念すべき全国優勝を果たしたのが、中元寺小学校剣道部に所属する子どもたちでした。

昭和前半

【昭和6年】

添田南・北小学校合併

【昭和7年】

添田青果市場、庄に開設

【昭和8年】

福岡県田川土木事務所添田出張所設置

【昭和9年】

農林省福岡県食糧事務所添田出張所設置

【昭和10年】

中元寺小学校剣道部が全国少年剣道大会で優勝

【昭和11年】

旧座主院跡に九州大学英彦山生物研究所が設置

【昭和13年】

国家総動員法公布・施行

【昭和14年】

英彦山神社の銅鳥居、国宝に指定

【昭和16年】

鷹巣山、国の天然記念物に指定

【昭和17年】

彦山村と添田町合併、戸数4,058戸、人口2万119人

【昭和20年】

二又トンネル大爆発。死者147人、負傷者149人



忘れてはならない 過去の記憶

ようとしたりときに大爆発が発生しました。多数の民家が吹き飛ばされ、死者147人、負傷者149人にもものほる大惨事となりました。現在、吹き飛

んだ山の跡地を鉄道が通っており、「爆発踏切」という名称の踏切からは切り通しになった山の姿を見ることができません。



3 1 添田駅にて入隊出発風景

昭和14(1939)年9月、第2次世界大戦が始まると、添田町からも多くの兵隊が出発し、駅にはたくさんの人々が集まりました。

2 庄東橋

庄東橋は、昭和6(1931)年に開通した橋で、道路整備により人々がまちを行き来しやすくなり、利便性が向上しました。

3 二又トンネル爆発大事故

昭和20(1945)年11月12日に起こった二又トンネル爆発大事故では、一瞬の閃光で約300名もの死傷者を出すという甚大な被害をもたらしました。



1

1 オリンピック聖火リレー記念

昭和39(1964)年、日本で初めてオリンピック東京大会が開催され、多くの聖火ランナーが出場しました。

2 真夏の成人式のはじまり

昭和40(1965)年、添田町で初めて真夏の成人式が開催されました。

3 登山大会選手の町内パレード

昭和49(1974)年、全国から集まった全国高等学校登山大会の選手によるパレードが行われました。

4 添田町役場新庁舎の完成

昭和50(1975)年に完成した添田町役場新庁舎。



2



3



4



▲町制施行50周年記念式典

昭和36(1961)年に添田中学校で行われた記念式典では、表彰作文コンクールの発表や郷土踊りの披露、そして町政功労者、善行者などの表彰が行われました。

昭和後半

【昭和26年】

添田町農業委員会発足

【昭和27年】

添田町教育委員会、第1回委員会開催

【昭和28年】

添田町商工会発足

【昭和29年】

英彦山神社棟札14枚、国の重要文化財に指定

【昭和30年】

津野村・添田町合併。戸数5,953戸、人口2万7,658人

【昭和36年】

町制施行50周年記念式典

【昭和40年】

西日本鉄道添田発着所(バスターミナル)完成

【昭和41年】

英彦山神社板倉が県の文化財に指定

【昭和42年】

中央公民館改築工事竣工

【昭和45年】

添田町営ごみ処理場野田に完成
野田・樹田・日三崎地区に給水開始

【昭和63年】

オークホール竣工

戦

後になると、朝鮮戦争など外国からの軍需要請により、炭坑産業が息を吹き返します。しかし、石油等の新エネルギーへの転換により、石炭産業は斜陽産業化して、炭坑の閉山が相次ぎました。それとともに増加していた人口や勢いづいていた商工業が衰え、林業なども衰退していききました。

その一方で、昭和36(1961)年、添田町は町制50周年を迎え、記念式典では郷土踊りや町政功労者への表彰が行われました。さらに昭和50(1975)年になると、町役場の新庁舎が完成し、新たなまちのシンボルとなりました。

平

成に入り、添田町では住民の福祉の向上を図るため、福祉施設

や観光施設等の整備を進めてきました。

平成11(1999)年には「歓遊舎ひこさん

さん」を開業し、町内外から添田町産の

野菜などを求めて、多くの人が訪れ始め

ました。平成20(2008)年には、JR 歓

遊舎ひこさん駅が開業し、さらに集客が

見込めるようになりました。

そして、平成23(2011)年、添田町は

記念すべき町制施行100周年を迎え

ました。



▲JR 歓遊舎ひこさん駅開業
道の駅に隣接する駅の完成により、より多くの人が道の駅に立ち寄りやすくなりました。

平成

【平成3年】

日本三彦山サミット開催

【平成4年】

添田町子ども育成連合会創立30周年記念式典

【平成5年】

韓国江華島代表、添田町を親善訪問

【平成6年】

英彦山温泉 しゃくなげ荘竣工式

【平成8年】

大韓民国江華郡との友好交流提携調印式

【平成11年】

ふれあい物産センター「歓遊舎ひこさん」開所式

【平成13年】

町制施行90周年記念式典

【平成18年】

英彦山スロープカー利用者10万人達成

【平成20年】

JR 歓遊舎ひこさん駅開業

【平成21年】

ブロードバンドサービス開始

道の駅・歓遊舎ひこさん開館10周年

【平成23年】

添田町町制施行100周年記念式典

添田100年 Column

添田町100周年 シンポジウム

平成23(2011)年9月、添田

町ガイドボランティアと町が連携し

てシンポジウムが開催されました。

交流の深い隣の市、日田市の方々

を招いてふるさとの魅力を語り合

いました。



▲英彦山・日田を語るシンポジウム
長野覺先生による「英彦山と広瀬淡窓」の講演会、鉦舞・獅子舞などのアトラクション、パネルディスカッションの3部構成で開催されました。



▲100周年記念式典

「つき進め、夢ある未来へ～自然と歴史のまちづくり～」をコンセプトに元氣よく歩き出した添田町。式典では、マスコットキャラクターの着ぐるみも披露されました。



▲100周年記念切手、記念誌

添田町制施行100周年を記念して、記念切手と記念誌が作成され、11月から販売が開始されました。そこには添田が紡ぐ100年の歴史がみつめています。

過去から未来へ 100年の歩みとともに。



議会・行政

議会と行政がともに協力し、
よりよいまちづくりをめざします。



▲ 議場風景

町民の声がきこえる まちづくりへ

行政とともに町政を支え、町民の声を反映させます。



議

会は、町民の代表として行政とともに町政を支えています。

年4回開かれる定例会と必要に応じて開催される臨時会があり、町民の声や意思が十分活かされるように、町の施策や予算、条例などの審議・決定を行います。

また、総務文教、産業厚生などの常任委員会があり、町が抱えるさまざまな問題や課題について専門的な観点から審議を行います。

議会は、行政と対等な立場で尊重し、協力し合いながら、よりよいまちづくりをめざします。



議長／白石 富雄



副議長／島田 勝廣



▲三役(右から、町長/寺西 明男 副町長/廣瀬 喜一 教育長/重松 孝士)

連携と協働でつくる 自立のまちをめざして

100年の節目を迎え、新しい第一歩を踏み出すまちづくりをめざします。



▲役場窓口



▲添田町庁舎



▲添田町ホームページ

行政

町

制施行100周年を契機として、添田町は新しい時代へと第一歩を踏み出しました。

迅速な対応と、さらなる住民サービスの向上を図るため、平成23(2011)年4月より、これまでの3課体制から7課体制による、新たな行政サービスの確立をめざしています。

また、第5次総合計画の基本理念、「豊かな自然と歴史のこころがつくる活力のあるまち〜まちはひととひとはまち連携と協働でつくる自立のまち〜」を将来像に掲げ、「元氣な添田町」をめざします。

子どもから高齢者まで、すべての町民が安心して暮らせるまちづくりを進めていきます。

統計資料編

地勢／人口	43
財政	44
産業／農業	46
教育・安全	47
保健・福祉	48
環境	49
その他	50

1 地勢

● 位置



● 面積

総面積	耕地	宅地	森林
132.10km ²	5.65km ²	2.23km ²	110.38km ²

● 年間降水量及び年間平均気温

合計 降水量 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	63.5	81.5	200.5	245.0	147.0	264.0	510.0	61.0	202.5	72.5	47.0	162.5
平均 気温 (°C)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	4.6	7.0	8.9	12.1	17.6	22.2	25.9	28.0	23.7	17.5	10.7	6.4

資料:気象庁

● 河川

河川名	種別	起点	終点	河川総延長
彦山川	1級	添田町大字落合	直方市の遠賀川合流点	36.7km
今川	2級	添田町大字津野	行橋市の海へ至る	31.6km
中元寺川	1級	添田町大字中元寺	彦山川への合流点	26.6km

2 人口

● 人口の推移

(人)

	男	女	合計
平成13年度	6,171	7,081	13,252
平成14年度	6,101	6,987	13,088
平成15年度	5,999	6,862	12,861
平成16年度	5,924	6,761	12,685
平成17年度	5,867	6,652	12,519
平成18年度	5,756	6,533	12,289
平成19年度	5,667	6,398	12,065
平成20年度	5,584	6,296	11,880
平成21年度	5,469	6,213	11,682
平成22年度	5,394	6,117	11,511

● 世帯数と一世帯あたりの人口

	世帯数(戸)	一世帯当人口(人)
平成13年度	4,979	2.7
平成14年度	4,990	2.6
平成15年度	4,970	2.6
平成16年度	4,957	2.6
平成17年度	4,960	2.5
平成18年度	4,978	2.5
平成19年度	4,969	2.4
平成20年度	4,958	2.4
平成21年度	4,971	2.4
平成22年度	4,924	2.3

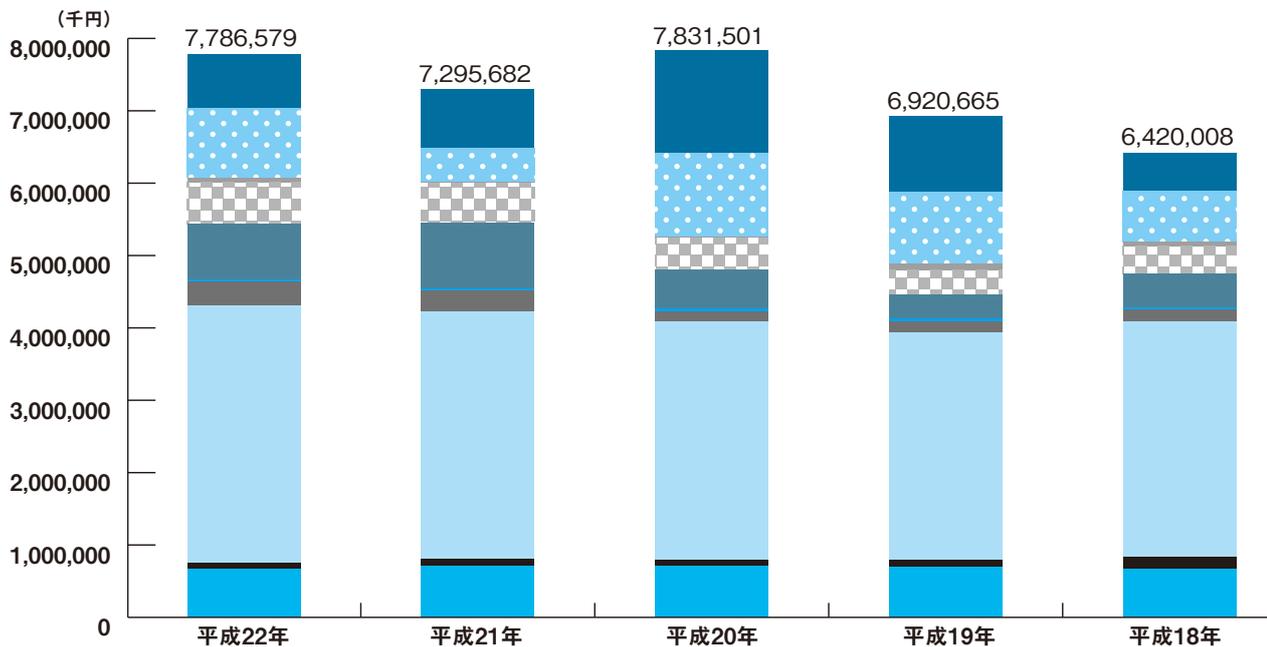
● 年齢別人口の推移

(人)

	0歳～4歳	5歳～14歳	15歳～19歳	20歳～29歳	30歳～49歳	50歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳以上	合計
平成18年度	381	991	582	1,223	2,314	2,157	768	894	2,979	12,289
平成19年度	363	983	531	1,171	2,298	2,051	840	847	2,981	12,065
平成20年度	364	944	509	1,131	2,254	1,939	934	817	2,988	11,880
平成21年度	354	922	493	1,056	2,215	1,802	1,033	826	2,981	11,682
平成22年度	350	910	496	991	2,186	1,729	1,111	767	2,971	11,511

3 財政

● 年次別普通会計決算状況(歳入)

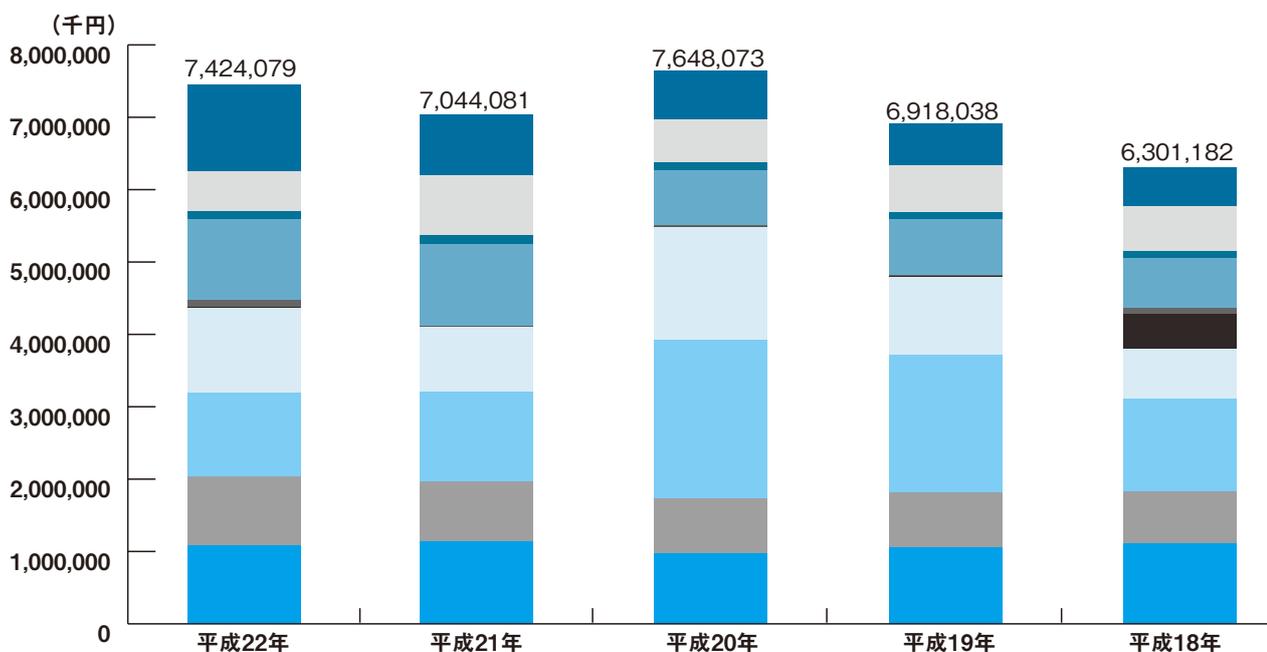


■ 町税 ■ 地方譲与税 ■ 地方交付税 ■ 使用料 ■ 手数料 ■ 国庫支出金 ■ 県支出金 ■ 繰越金 ■ 町債 ■ その他[※]

※「その他」には以下の項目が含まれます

利子割交付金／配当割交付金／株式等譲渡所得割交付金／地方消費税交付金／自動車取得税交付金／地方特例交付金／交通安全対策特別交付金／分担金及び負担金／財産収入／寄附金／繰入金／諸収入

● 年次別普通会計決算状況(歳出)



■ 人件費 ■ 扶助費 ■ 公債費 ■ 普通建設事業費 ■ 失業対策事業費 ■ 災害復旧費 ■ 物件費 ■ 維持補修費 ■ 補助費等 ■ その他[※]

※「その他」には以下の項目が含まれます

積立金／投資及び出資金／貸付金／繰出金

●特別会計の動き(平成18年度～平成22年度)

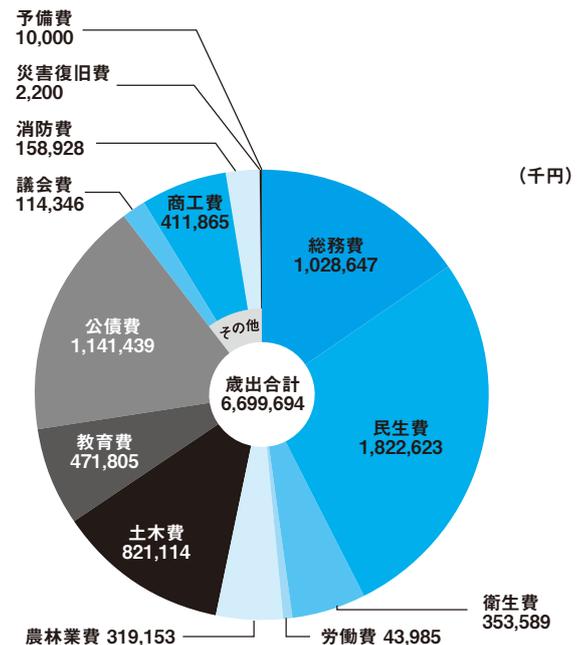
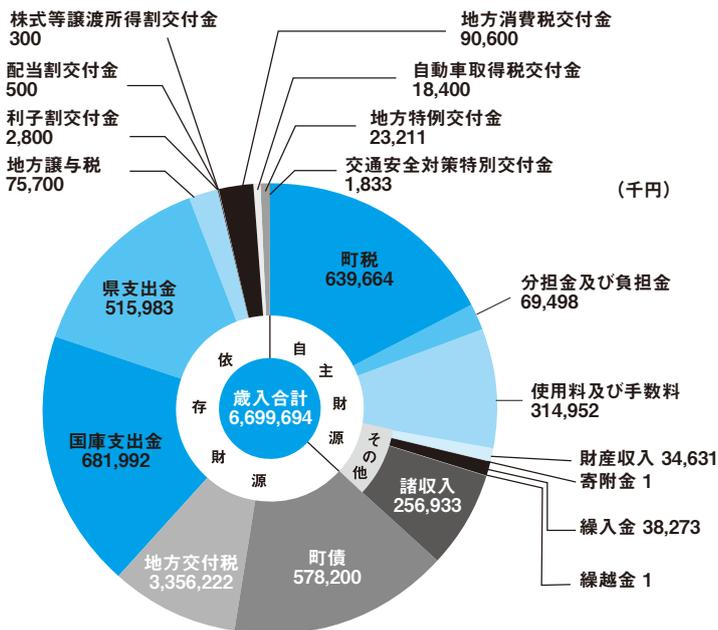
(千円)

会計区分		平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度
住宅新築資金等貸付	歳入	17,929	16,946	18,218	17,600	24,118
	歳出	17,801	16,604	18,008	17,362	23,295
	歳引	128	342	210	238	823
水道事業	歳入	237,805	219,199	234,812	242,960	240,369
	歳出	201,823	176,454	177,520	198,315	197,419
	歳引	35,982	42,745	57,292	44,645	42,950
老人保健	歳入	721	9,611	201,638	1,930,883	1,967,125
	歳出	721	10,164	192,807	1,946,948	1,928,035
	歳引	0	-553	8,831	-16,065	39,090
国民健康保険事業	歳入	1,588,929	1,616,064	1,706,440	1,776,265	1,596,511
	歳出	1,491,747	1,482,464	1,514,689	1,631,461	1,502,552
	歳引	97,182	133,600	191,751	144,804	93,959
バス会計	歳入	31,370	32,259	31,844	30,002	31,995
	歳出	31,067	31,738	31,517	29,505	31,720
	歳引	303	521	327	497	275
後期高齢者医療保険	歳入	162,657	153,659	155,517		
	歳出	160,824	151,927	154,374		
	歳引	1,833	1,732	1,143		

●財政状況(平成22年度)

区分	金融(指数)等	区分	金融(指数)等
市町村類型	Ⅲ-4	財政力指数	0.21
交付税種地区分	Ⅱ-3	実質赤字比率	△7.55%
基準財政収入額	726,008千円	連結実質赤字比率	△17.29%
基準財政需要額	3,649,851千円	実質公債費比率	10.30%
標準税収入額	911,011千円	将来負担比率	△0.90%
標準財政規模	4,131,938千円	財政調整積立金	2,991,087千円
経常収支比率	96.5%	地方債現在高	8,644,004千円

●平成23年度予算 添田町一般会計予算



4 産業

● 産業別就業人口

(人)

区分	平成7年度	平成12年度	平成17年度	
第一次産業	農業	438	381	323
	林業	62	34	18
	漁業	0	0	0
	計	500	415	341
第二次産業	鉱業	22	15	9
	建設業	1,011	887	600
	製造業	807	684	464
	計	1,840	1,586	1,073
第三次産業	卸・小売業	1,076	998	817
	金融保険・不動産業	72	68	73
	運輸通信業	337	301	267
	電気・ガス・水道業	40	25	23
	サービス業	1,638	1,599	1,899
	公務	274	225	209
	分類不能	6	1	9
	計	3,443	3,217	3,297
合計	5,783	5,218	4,711	

資料:国勢調査

● 経営規模別農家数

(戸)

	0.5ha未満	0.5~0.99	1.0~1.99	2.0以上	合計
平成22年度	119	159	49	18	345

資料:2010年世界農林業センサス

● 農産物販売金額規模別農家数

(戸)

50万円未満	50~100	100~200	200~300	300~500	500~700	700~1,000
237	37	18	17	11	7	6
1,000~1,500	1,500~2,000	2,000~3,000	3,000~5,000	5,000~1億	1億~3億	
6	1	4	0	0	1	

資料:2010年世界農林業センサス

5 農業

● 作付面積

	水稲(ha)	麦[二条大麦](ha)	豆(ha)	大根(ha)	にんじん(ha)	キャベツ(ha)	ハクサイ(ha)	レタス(ha)	カーネーション(a)	トルコギキョウ(a)
平成18年度	264	15	29	6	10	6	12	5	×	366
平成19年度	265	9	23	6	10	6	12	6	40	340
平成20年度	261	12	36	2	1	4	5	5	19	217
平成21年度	257	12	34	2	1	3	4	5	30	346

資料:福岡県農業統計調査

● 米の作付面積及び収穫量

	作付面積(ha)	10a当たり(kg)	収穫量(t)
平成18年度	264	410	1,080
平成19年度	265	468	1,240
平成20年度	261	472	1,230
平成21年度	257	458	1,180
平成22年度	268	461	1,240

資料:福岡県農業統計調査

⑥ 教育・安全

● 町内学校・幼稚園の状況 平成23年5月1日現在

区分	学級数	教員数(人)	児童・生徒数(人)			
			男	女	計	
小学校	津野小学校	6	7	12	9	21
	添田小学校	14	25	179	169	348
	中元寺小学校	7	11	24	29	53
	落合小学校	6	8	22	15	37
	真木小学校	7	15	28	30	58
	計	40	66	265	252	517
中学校	添田中学校	11	27	139	128	267
幼稚園	宮城幼稚園(私)	3	5	23	26	49
合計		54	98	427	406	833

資料:平成23年度 学校基本調査

● 犯罪・発生及び検挙数

(件)

		凶悪犯	窃盗犯	粗暴犯	知能犯	その他刑法犯	計
平成18年度	検挙	0	84	10	2	7	103
	発生	0	131	9	4	20	164
平成19年度	検挙	0	59	14	0	16	89
	発生	0	119	8	3	20	150
平成20年度	検挙	0	62	5	3	8	78
	発生	0	72	3	6	11	92
平成21年度	検挙	0	32	5	11	22	70
	発生	0	71	4	8	28	111
平成22年度	検挙	0	10	1	1	3	※1 15
	発生	0	75	6	0	12	※2 93

注)発生件数は添田町のみ

資料:田川警察署

検挙件数は添田警察署の検挙件数

平成22年の検挙件数については1月～3月末まで。

平成22年4月からは田川警察署と合併したため統計は出ません。

※1 添田警察署の検挙件数(1月～3月分)

※2 添田町のみ(1月～12月分)

● 交通事故発生件数

	件数(件)	負傷者数(人)
平成18年度	66	86
平成19年度	61	78
平成20年度	44	59
平成21年度	50	63
平成22年度	38	57

資料:田川警察署

● 添田町内火災発生状況

	出火件数(件)					焼損棟数	罹災		焼損面積		死者(人)	負傷者(人)	損害額(千円)
	建物	林野	車両	その他	計		世帯数(戸)	人員(人)	建物(m ²)	林野(a)			
平成19年度	5	1	2	3	11	5	2	4	124	1	0	0	712
平成20年度	4	2	0	2	8	6	2	2	134	3	0	0	1,902
平成21年度	4	1	0	2	7	9	7	23	789	15	0	0	15,812
平成22年度	2	0	0	5	7	2	2	7	1	0	0	1	5

資料:田川地区消防本部

7 保健・福祉

● 国民健康保険加入・給付の状況

	加入状況		給付費(千円) (18年度・19年度 老人拠出金含む)	保険税額(千円) (調定額)	保険税負担率(調定額)		収納率(%)
	世帯数(戸)	被保険者数(人)			一世帯当り(円)	一人当り(円)	
平成18年度	2,993	5,370	1,267,963	308,427	103,049	57,435	95.61
平成19年度	2,996	5,323	1,283,636	310,747	103,720	58,378	95.09
平成20年度	2,069	3,574	1,026,914	216,556	104,666	60,592	93.83
平成21年度	1,987	3,442	972,849	203,336	102,333	59,074	94.27
平成22年度	1,940	3,333	1,013,031	189,828	97,849	56,954	94.83

資料:事業年報

● 国民年金受給者の状況 (人)

	老齢福祉年金	老齢給付	障害給付	遺族給付	計
平成18年度	7	3,221	285	29	3,542
平成19年度	4	3,292	280	27	3,603
平成20年度	2	3,355	288	30	3,675
平成21年度	2	3,350	284	28	3,664
平成22年度	0	3,334	289	25	3,648

資料:直方年金事務所

● 国民年金被保険者の状況 (人)

	被保険者数			
	1号	3号	任意	計
平成18年度	2,221	576	23	2,820
平成19年度	2,160	552	22	2,734
平成20年度	2,027	532	24	2,583
平成21年度	1,934	535	29	2,498
平成22年度	1,820	517	32	2,369

資料:直方年金事務所

● 予防接種の状況

	三種混合	二種混合	ポリオ	BCG	日本脳炎	麻疹・風疹混合	風疹
平成18年度	249	104	126	57	0	127	7
平成19年度	268	82	138	65	3	144	0
平成20年度	316	98	185	75	3	287	1
平成21年度	259	78	152	61	5	277	1
平成22年度	316	77	132	84	122	275	0

※1

※2

注) 数字は国に報告している地域保健の集計です。

※1 平成17年5月より積極的なワクチン接種が控えられていたため

※2 麻疹罹患者が混合ワクチンではなく単独接種を実施したもの

8 環境

● 給水戸数・給水量(平成22年度)

区分	戸数(戸)	給水量(m ³)	一戸当り1ヶ月給水量(m ³ /戸・月)	一戸当り1日給水量(m ³ /戸・日)
上水道	3,824	808,430	15	0.48
簡易水道	658	136,124	14	0.47
合計	4,482	944,554	—	—

● 給水利用状況(平成22年度)

区分	戸数(戸)	家庭用(一般用)		営業用		公共団体用		その他	
		戸数	給水量(m ³)	戸数	給水量(m ³)	戸数	給水量(m ³)	戸数	給水量(m ³)
上水道	3,824	3,632戸	639,105m ³	106戸	47,699m ³	60戸	109,989m ³	26戸	11,637m ³
簡易水道	658	601戸	103,522m ³	19戸	2,424m ³	20戸	30,090m ³	18戸	88m ³
合計	4,482	4,233戸	742,627m ³	125戸	50,123m ³	80戸	140,079m ³	44戸	11,725m ³

● 給水率(平成22年度)

区分	給水人口(人)	給水区域内人口(人)	給水率【普及率】(%)
上水道	8,684	8,748	99.27
下中元寺簡易水道	468	533	87.80
英彦山簡易水道	192	230	83.48
上中元寺簡易水道	445	659	67.53
落合簡易水道	408	483	84.47
合計	10,197	10,653	95.72

● ごみ収集の状況

	収集人口(人)	収集量(t)	一戸当り収集量
平成18年度	12,289	2,599	522kg(4,978世帯)
平成19年度	12,065	2,644	532kg(4,969世帯)
平成20年度	11,880	3,095	624kg(4,958世帯)
平成21年度	11,682	3,141	631kg(4,971世帯)
平成22年度	11,511	3,148	639kg(4,924世帯)

● し尿収集処理状況(汲取)

	収集人口(人)	収集量(kℓ)	36ℓ当り汲取料金(円)
平成18年度	9,413	6,687	410
平成19年度	8,906	6,322	410
平成20年度	8,589	6,116	410
平成21年度	8,339	6,147	410
平成22年度	7,980	5,903	410

● 建設(平成23年度4月現在)

区分	路線数	総延長			改良・未改良別		路面別		改良率(%)	舗装率(%)
		路線	橋りょう	計	改良	未改良	砂利道	舗装道		
町道	274	221.0km	2.0km	223.0km	184.0km	39.0km	30.0km	193.0km	83.0	87.0
林道	29	55,994m	68m	56,062m	—	—	7,461m	48,533m	—	86.57

⑨ その他

● 選挙状況

日時	選挙名	有権者数(人)			投票者数(人)			投票率(%)		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成18年 7月16日	添田町議会議員一般選挙	4,708	5,572	10,280	3,886	4,786	8,672	82.54	85.89	84.36
平成19年 1月21日	添田町長選挙	無投票								
平成19年 4月 8日	福岡県知事選挙	4,682	5,545	10,227	2,959	3,719	6,678	63.20	67.07	65.30
平成19年 4月 8日	福岡県議会議員一般選挙	4,682	5,545	10,227	2,958	3,717	6,675	63.18	67.03	65.27
平成19年 7月29日	第21回参議院議員通常選挙	4,695	5,526	10,221	2,861	3,465	6,326	60.94	62.70	61.89
平成21年 8月30日	衆議院議員総選挙	4,575	5,369	9,944	3,296	3,916	7,212	72.04	72.94	72.53
平成22年 6月27日	添田町議会議員一般選挙	4,456	5,253	9,709	3,636	4,485	8,121	81.60	85.38	83.64
平成22年 7月11日	第21回参議院議員通常選挙	4,507	5,306	9,813	2,731	3,213	5,944	60.59	60.55	60.57
平成22年 8月22日	添田町長選挙	4,450	5,258	9,708	3,502	4,267	7,769	78.70	81.15	80.03
平成23年 4月10日	福岡県知事選挙	4,426	5,216	9,642	2,612	3,245	5,857	59.01	62.21	60.74
平成23年 4月10日	福岡県議会議員一般選挙	4,426	5,216	9,642	2,612	3,245	5,857	59.01	62.21	60.74

● 歴代町長

	氏名	就任期間
初代	綾部 正蔵	明治43年 4月~大正 3年 5月
2~4代	岩崎 高蔵	大正 3年12月~大正12年 9月
5代	宮崎松次郎	大正13年 6月~昭和 3年 6月
6~7代	久良知 敏	昭和 3年10月~昭和 7年 9月
8~11代	水上友吉郎	昭和 7年11月~昭和11年11月/ 昭和17年 6月~昭和21年 6月
9~10代	大石彦太郎	昭和11年11月~昭和17年 5月
12~15代	伊藤 保司	昭和21年 8月~昭和34年 1月
16~17代	中富鐵之助	昭和34年 2月~昭和42年 1月
18代	戸渡 義章	昭和42年 2月~昭和46年 1月
19~28代	山本 文男	昭和46年 2月~平成22年 7月
29代	寺西 明男	平成22年 8月~

● 歴代議長

	氏名	就任年月		氏名	就任年月
初代	神崎 正善	昭和21年 5月	13代目	桑野 博行	昭和50年 6月
2代目	田中 秀雄	昭和22年 5月	14代目	二宮 瀧治	昭和53年 6月
3代目	坂本 清一	昭和26年 5月	15代目	毛利 修	昭和54年 6月
4代目	安藤 徹	昭和30年 6月	16代目	松本 治	昭和57年 6月
5代目	山本 円治	昭和31年10月	17代目	大塚 正三	昭和61年 3月
6代目	城水 運美	昭和34年 1月	18代目	毛利 修	平成 2年 2月
7代目	畠田金太郎	昭和34年 6月	19代目	緒方 邦房	平成 2年 8月
8代目	太田 一郎	昭和38年 6月	20代目	穴井 金吾	平成 6年 7月
9代目	荒木 定吉	昭和40年 6月	21代目	緒方 邦房	平成10年 7月
10代目	山本 文男	昭和42年 6月	22代目	浦野 信義	平成11年 6月
11代目	一ノ宮浦吉	昭和46年 2月	23代目	白石 富雄	平成22年 7月
12代目	進藤 清吾	昭和46年 6月			

● 連絡先一覧

名称	電話番号
添田町役場	0947-82-1231
オークホール(そえだ公民館・働く婦人の家)	0947-82-2559
そえだサンスポーツランド(そえだドーム)	0947-82-3800
添田町立図書館	0947-82-4800
町民会館	0947-82-0423
ふれあいの館 そえだジョイ	0947-82-2600
養護老人ホーム 錦風荘	0947-82-0643
特別養護老人ホーム そえだ	0947-82-4112
隣保館	0947-82-2226
岩石城(保健センター・アートホール)	0947-82-3325
浄水場	0947-82-0483
英彦山修験道館	0947-85-0378
英彦山温泉 しゃくなげ荘	0947-85-0123
ひこさんホテル和	0947-85-0121
スロープカー駅舎	0947-85-0375
ひこさん花工房	0947-31-2034
英彦山野営場	0947-85-0550
歓遊舎ひこさん	0947-47-7039
クアハウスハピネス	0947-82-5061
特産物開発室	0947-82-2649

名称	電話番号
みどり保育園	0947-82-0605
くるみ保育園	0947-85-0374
子育て支援センター	0947-85-0888
ひかり保育園	0947-84-2171
たから保育園	0947-82-4576
聖光保育園	0947-82-0257
真木保育園	0947-73-3126
宮城幼稚園	0947-82-2210
添田小学校	0947-82-0033
真木小学校	0947-82-0400
中元寺小学校	0947-82-0129
落合小学校	0947-85-0707
津野小学校	0947-84-2005
添田中学校	0947-82-0116
添田人材開発センター	0947-82-3730
福岡県立英彦山青年の家	0947-85-0101
福岡県油木ダム管理事務所	0947-84-2023
福岡県陣屋ダム管理事務所	0947-82-0559
福岡森林管理署彦山森林事務所	0947-82-0185
田川警察署添田警部交番	0947-82-0574

名称	電話番号
田川警察署落合駐在所	0947-85-0555
田川警察署英彦山駐在所	0947-85-0047
田川警察署津野駐在所	0947-84-2006
田川地区消防署添田分署	0947-82-0500
田川地区消防署	0947-44-0650
田川地区消防組合火災情報	0947-42-0119
田川郡東部環境衛生施設組合	0947-82-2790
添田郵便局	0947-82-0042
津野郵便局	0947-84-2042
彦山郵便局	0947-85-0442
庄郵便局	0947-82-0300
添田駅	0947-82-0016
添田町商工会	0947-82-0244
田川農業協同組合添田支所	0947-82-1131
福岡銀行添田支店	0947-82-1200
田川信用金庫添田支店	0947-82-4141
添田町森林組合	0947-82-0069
株式会社 ウッディー	0947-82-3775
株式会社 栄農社	0947-31-2037

見どころ満載

添田町

イラストマップ

SOEDA TOWN

みやこ町

大分県 日田市



1 ふれあいの館 そえだジョイ



2 ひこさん花工房



3 ひこさんホテル和



4 英彦山花園スロープカー



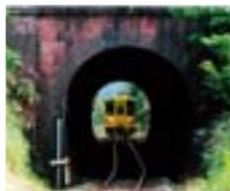
5 英彦山温泉 しゃくなげ荘

豊かな自然と
歴史のこころがつくる
活力のあるまち



添田町

まちと人がつながり 力強く未来へ



添田町町勢要覧

発行／福岡県 添田町

〒824-0691 福岡県田川郡添田町大字添田2151

TEL0947-82-1231

FAX0947-82-2869

URL <https://www.town.soeda.fukuoka.jp/>



本紙は環境に配慮した
ベジタブルインキを使用
しています。